

H250310

- ①大抵の西洋みつばちは日本みつばちより大きめで、黄色っぽい色の印象。(但し、品種、系統によって黒色系もいる)
- ②大抵の日本みつばちは、西洋みつばちより小さめで、黒っぽい色の印象。(但し、夏タイプはかなり黄色っぽくなる)
- ③日本みつばちはダニの被害が少ない。各種の病気も非常に少ない。スズメバチに対抗する能力が高い。
- ④西洋みつばちはミツバチへギイタダニが大量発生しやすい。各種の病気になりやすい。スズメバチに対抗する能力が低い。
- ⑤日本みつばちの巣が1 Km 以内にあるかどうかの見分け方は背の低い草花を(なの花、ラベンダーやクローバーの花セイダカアワダチ草など)見ればわかりやすい。
- ⑥日本みつばちは普通近くに居ます。神社や公園の木の洞また電柱やお墓や天井裏、また角どう丸どう、重箱式の巣箱で飼っている巣箱から春になったら分封します。南では3月末に分封はじまる。
- ⑦「待ち箱巣箱」を畑の横、大木の横、石垣の上、ベランダの上などの高い場所の日陰に設置する。分封20日前～30日前位に設置する。
- ⑧「待ち箱巣箱」は使い込んだ古い待ち箱巣箱(みつろう、はちみつの付いた巣箱)使用した方が良く入る。
一箇所、2～3箱ていど1 Km 間隔で設置。
前もって巣礎枠(巣枠に巣礎を張った物)で巣箱内をみたしておくと、分封群の入った時に扱いや移動そして管理、採蜜がしやすくなる。

文面の作成者：「日本在来種みつばちの会」会長：藤原 誠太 氏
「徳永養蜂場」場長：徳永 進

- ①「待ち箱巣箱」に分封群が入れば、新しい巣箱にハチ自身が出す蜜蝋や蜂蜜などのにおいがつくので待ち箱巣箱のまま飼育箱に使用できる。
- ②新しい巣箱に、産卵している巣枠や貯蜜枠を入れて2～3日したら2Km以上移動できる。
(逃去の可能性がある場合女王蜂の脱出防止具を取り付ける事)
- ③移動は夜に全部ハチが戻ったら門をガムテープ等で封印する。(移動は2Km以上とする)
また長距離の移動は前後の巣門及び窓開閉板を下にさげて網が見えるようにして移動する。(窒息しないため必要)
- ④またその後に新たに待ち箱に待ち箱用巣枠を入れて設置しておけば次の分封群が入る。(1ヶ所で9群つかまえた例有り)
- ⑤冬の移動は低温ではハチが出て居ないので、すばやく行えば昼間門を閉めても大丈夫。ガムテープを貼る程度(湿ってなければ)で移動出来る。2Km以上移動で門を開ける場合、ハチを落ち着かせてから門を開ける。
低温下で振動を与えその後すぐに、門またフタを開けて出たハチは、(頭の毛、黒い服、黒ぼうし)に反応して周囲の人を刺しやすい。
(門から出たハチは冷えて、巣箱のまわりで死んでしまう。
冬のハチは再生が出来ないから出来るだけ死なせない事。
ハチと蜜が多くないと冬越し出来にくい。
(8Kg以上の貯蜜が欲しい)

⑥用意する道具

白色の蜂防護服、白いゴム手袋、蜂ブラシ、ハイブツール、ネジ・ねじ回し、日本蜜蜂には燻煙器は冬のみ使用可能。

文面の作成者：「日本在来種みつばちの会」会長：藤原 誠太 氏
「徳永養蜂場」場長：徳永 進

もともと自分が手元に日本ミツバチの飼育群を持っている人であれば徳永式待ち箱巣箱に分封群が入ったら巣作りが始まるまでに、10枚用巣箱に産卵しているものから巣枠2枚くらい、別の10枚用巣箱に入れてその箱に分封の群れを移しかえる。

巣礎を張った巣枠をその両脇に追加し、2Km移動するか、その場で飼育する。それぞれ2～3Kg 砂糖水を移動後ただちに給餌する。

数日以内に片羽根を半分切る。

巣礎を張った巣枠を追加しないと早い時期に再び分封熱が起きやすい。蜂が巣箱に満杯になったら継箱を上に乗せる。

冬越しした蜂は条件の良い場所（食料がたくさんある所）では大半のミツバチは春の内に分封する。

分封した蜂を捕まえる方法

①分封する近くに「徳永式待ち箱巣箱」を設置。

②人工分封は王台が付いたそれぞれの巣枠と各1枠ごと3箱（群の大きさにより）くらいに分ける。

③王台を見れば分封する日（土台が成熟して先っぽが黄色く変色したら数日で分封する）が分かるのでそれを見て判断する。

9時～14時に分封しやすいのであらかじめ乾いた砂を用意して分封した蜂に投げつけて飛行を止めさせ近場に蜂球を形成させ7枚用巣箱本体（古い巣箱に蜜蝋蜂蜜を付けた巣箱）の底を上にして手が届くところに設置して蜂球を箱内に導く。

7枚用巣箱本体に蜂球を形成したものを本来の開口部を上向きにもどし（ゴム手袋しながらゆっくり追いたてる）間髪いれずに上に継箱（餌箱に餌を入れ巣礎をはった巣枠、産卵している巣枠1枚入れたもの）を乗せて蓋を閉じ定着させる。

（1群から9群に増やした人あり）母群も2回分封した例もある（夏分封）。

④大きな木の枝に蜂球を作った蜂は徳永式待ち箱巣箱（巣箱は太陽にさらされて熱くなった状態では使用しない）に入れて定着させる。

エサを与えるタイミング

① 餌に砂糖1Kg+水1Kgの割合を混合したものを巣箱内に給餌器で与える。（寒い時期には40℃に暖めて！！）。（西洋蜂のはちみつ、日本蜂のはちみつ）

② 人工花粉市販には用途の違いも含め何種類の商品もある（7種類を混合した物）ナイロンの袋に入れ袋に切れ目を下にして巣枠の上に置いて食わせる。

・春前に（2月頃から）人工花粉を与える。

・秋前に（8月頃から）人工花粉を与える。

③ 人工花粉を与えることによって産卵が良くなる。

④ 冬までに蜂を、増やす。（最低6,000匹）つまり赤ちゃんの頭ぐらいの数、また貯蜜（8Kg最低限）がないと冬越さない。

文面の作成者：「日本在来種みつばちの会」会長：藤原 誠太 氏
「徳永養蜂場」場長：徳永 進